

# 令和7年度 大府市有識者懇話会の概要



令和8年3月発行

# 1 有識者懇話会のあらまし

## 1 有識者懇話会の目的

第6次大府市総合計画及び令和7年施政方針の重要施策の推進に当たり、専門家から3～5年後を見据えて今取り組むべきことについて先進的な政策提言を受け、本市の施策に取り入れ、令和8年度予算に反映する。

## 2 有識者懇話会の実施方法

令和3年度から実施。令和7年度は2つの新たなテーマを設定し、市長とテーマごとの有識者で意見交換した。ファシリテーター（進行役）には、一般社団法人地域問題研究所の池田哲也事業部長を迎えた。

はじめに、有識者から15分の市政提案を行った後、フリートークを行った。また、オブザーバーとして、副市長、関係部長等が参加した。



### 日程及び分野

回	日時	テーマ
1	令和7年6月26日（木） 午後2時～4時	貢献寿命の延伸を目指して
2	令和7年7月9日（水） 午後2時～4時	サーキュラーエコノミーの 推進について

### 市長との懇話会参加者

（敬称略）

回	参加者
1	秋山 弘子（東京大学 名誉教授） 戸成 司朗（一般社団法人中部 SDGs 推進センター 代表理事） 早瀬 昇（社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長）
2	矢笠 嵐（公益財団法人地球環境戦略研究機関 リサーチマネージャー） 坂野 晶（株式会社 ECOMMIT 上席執行役員 CSO） 高谷 裕一郎（五段農園 代表）

## 2 各委員からの提案内容

### 第1回 貢献寿命の延伸を目指して【6月26日】

#### 秋山 弘子（東京大学 名誉教授）

##### 人生100年時代を見据えた課題

- ・ 定年後も長いセカンドライフを送る市民が増加する中、シニアの能力や意欲を十分に活かせる就労や社会参加の機会が不足している。
- ・ 地域との関わりの減少は、孤立・孤独につながる恐れがあり、対策が必要である。

##### シニアの就労支援の方向性

- ・ 人生100年時代に対応するため、地域資源を活用し、シニアの多様な生活スタイルに応じた柔軟な就労環境を整備することが重要である。
- ・ 農業や子育て支援など、地域ニーズに即した仕事を創出し、無理のない形で社会と関わられるセカンドライフ就労の機会を提供する必要がある。

##### 社会参加の促進と孤立防止

- ・ 就労に限らず、ボランティアや地域活動など、シニアが地域とつながり、役割を持てる社会参加の場を拡充することが、孤立・孤独の解消につながる。
- ・ 「地域に貢献できている」という実感を得られる仕組みづくりが重要である。

##### ITツールを活用した支援

- ・ スマホアプリ「GBER（ジーバー）」などのITツールを活用し、シニアの希望や能力と地域のニーズをつなぐマッチング支援を行うことが有効である。
- ・ あわせて、デジタルに不慣れなシニアへの支援も検討する必要がある。

##### 今後に向けて

- ・ 人生100年時代に適合した地域インフラの整備を進め、市民が安心して暮らし、活動できる環境づくりを検討することが求められる。
- ・ 産官学民が連携し、シニアの経験と能力を活かす持続可能な仕組みづくりを進めていくことが重要である。

#### 戸成 司朗（一般社団法人中部SDGs推進センター 代表理事）

##### 高齢者雇用を取り巻く状況

- ・ 高齢期においても就労を希望する市民は多く、その意欲や経験を地域で活かすことが重要である。
- ・ 「おおぶ生き生き幸齢者応援八策」の強化に向けて、高齢者が最期まで現役で活躍することを目指してほしい。

##### 企業への働きかけによる高齢者雇用の促進

- ・ 高齢者の就労希望や実態を踏まえ、企業向けに高齢者雇用の意義や多様な働き方に関する広報・研修を実施することが有効である。
- ・ 高齢者人材の活用が、企業の人材不足対策や地域経済の活性化につながることを伝えていく必要がある。

### 認証制度による好事例の可視化

- ・優れた高齢者雇用に取り組む企業を表彰・認証する制度を創設することで、企業の意識向上と取り組みの横展開が期待される。
- ・地域全体で高齢者雇用を支える機運を高めることが重要である。

### 市民活動支援の一体的推進

- ・市民活動支援組織を一元化し、市民活動センターを拠点として非営利活動の持続可能性を高めることが求められる。
- ・有償ボランティアへの理解を促進し、活動を継続しやすい環境づくりを進める必要がある。

### 本人の意思を尊重する医療・介護体制

- ・「さくらノート」に記載された終末医療ケアの情報をカード化し、救急医療や介護現場で活用できる仕組みを導入することが有効である。
- ・本人の意思を尊重した対応が可能となり、市民が安心して暮らし続けられる地域づくりにつながる。

## 早瀬 昇（社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長）

### 健康寿命・貢献寿命と社会参加の関係

- ・高齢者の健康寿命や貢献寿命を延ばすためには、地域との「つながり」を維持することが重要であり、社会参加の促進が不可欠である。
- ・週2回以上のボランティアや地域活動への参加が、心身の健康維持や生きがいの創出につながることから、参加しやすい環境整備が求められる。

### 参加しやすいボランティア環境づくり

- ・多様なボランティア活動プログラムを開発し、時間や内容の選択肢を広げることで、参加のハードルを下げるのが重要である。
- ・活動内容や参加方法に関する情報提供を充実させ、参加希望者のニーズに応じたプログラム案内を徹底することが求められる。

### 市民参加支援体制の強化

- ・総合ボランティアセンターと市民活動センターを一体的に運営し、連携を深めることで、包括的な市民参加支援体制を構築することが重要である。
- ・コーディネーターの育成・配置に注力し、参加者のモチベーション向上やプログラム開発を支援する人材育成施策を進める必要がある。

### 多様な参加形態の尊重

- ・強制的な参加ではなく、「行ってみたい」「続けたい」と思える自発的な参加を促す取り組みが重要である。
- ・無償のボランティア活動に加え、有償の市民活動も含めた多様な参加形態を認め、支援の幅を広げることが求められる。

## 第2回 サークュラーエコノミーの推進について【7月9日】

矢笠 嵐（公益財団法人地球環境戦略研究機関 リサーチマネージャー）

### サーキュラーエコノミーの考え方と背景

- ・ サークュラーエコノミーとは、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却し、資源使用と廃棄を最小化しながら、再利用・循環を進める経済モデルである。
- ・ 気候変動や生物多様性の喪失、汚染といった地球規模課題の背景には資源の使い過ぎがあり、サーキュラーエコノミーはその根本的な解決策として位置づけられている。

### 市民参加による循環型の仕組みづくり

- ・ 市民が参加できる「シェア・リペア・リユース」の仕組みを導入することで、循環型社会に対する市民意識の醸成を図ることが重要である。
- ・ 修理や再利用を身近な行動として捉えられるよう、市民参加型の取り組みを広げていく必要がある。

### 行動変容を促す政策の活用

- ・ ナッジ（行動経済学的手法）を活用した「行動変容型政策」により、プラスチックごみの分別や資源回収率の向上を目指すことが有効である。
- ・ 他自治体の事例では、ナッジの活用により資源排出量が改善した実績もあり、市においても導入を検討する価値がある。

### リペア拠点・循環ネットワークの支援

- ・ 修理拠点やリペアネットワークを支援することで、製品を長く使う文化を地域に根付かせることができる。
- ・ 市内の個人・団体が既に行っている循環に関する取り組みを把握し、支援や拡大の機会を検討することが重要である。

### 循環型ビジネスへの支援

- ・ 循環ビジネスを後押しする補助制度を検討し、地域企業や市民活動の挑戦を支援することが求められる。
- ・ 「売り切り型」から「サービス型」へのビジネスモデル転換や、修理・メンテナンスを重視した取り組みを支えることで、環境と経済の両立を図ることができる。

坂野 晶（株式会社 ECOMMIT 上席執行役員 CSO）

### ごみ減量とリユース推進の背景

- ・ ごみ処理量の削減と資源循環の推進に向けて、廃棄される前の「まだ使えるもの」を適切に回収し、次につなげる仕組みづくりが重要である。
- ・ 市民の行動変容を促すためには、分かりやすく、参加しやすいリユースの機会を日常生活の中に組み込む必要がある。

### ごみ処理施設におけるリユース可能品の活用

- ・ 東部知多クリーンセンターにおいて、ごみ処理過程でリユース可能な品を回収・再流通させる「レスキュー」の仕組みを導入することで、最終処分量の削減が期待できる。
- ・ 廃棄直前の段階での回収は、自治体が関与することで適切な判断と運用が可能となる。

### 市民参加型リユース回収イベントの実施

- ・ 年末大掃除の時期などに合わせて、市民参加型のリユース回収イベントを定期的開催することが有効である。
- ・ イベント回収は、ごみ減量の実効性に加え、市民の意識啓発や行動変容につながる取り組みであり、年間計画として位置づけることが望ましい。

### PASSTO を活用した常設回収拠点の整備

- ・ PASSTO を活用し、商業施設や公共施設など、市民の生活動線上に常設の回収拠点を整備することで、日常的なリユース行動を促進できる。
- ・ 身近な場所でいつでも利用できる環境を整えることが、市民の「もったいない」という意識を行動につなげる鍵となる。

### データ活用と継続的な改善

- ・ 回収から再流通・リサイクルまでのトレーサビリティを確保し、データを蓄積・分析することで、効果的な啓発や施策改善につなげることが可能である。
- ・ 自治体と事業者が連携し、回収実績や課題を共有しながら、継続的に仕組みを磨き上げていくことが重要である。

## 高谷 裕一郎（五段農園 代表）

### 生ごみ堆肥化の意義と背景

- ・ 生ごみは「ごみ」ではなく、適切に循環させることで価値を生む資源であり、焼却中心の処理から転換することが求められる。
- ・ 可燃ごみの多くを占める生ごみを堆肥化することは、CO<sub>2</sub>排出削減や資源有効活用の観点からも重要である。

### 市民参加型の堆肥化の仕組みづくり

- ・ 大府市が保有するバイオガスプラントの大型施設に加え、市民が参加しやすい小規模な堆肥化拠点を整備することで、生ごみ循環を身近な取り組みとして広げることができる。
- ・ 小規模拠点を各所に設けることで、市民の負担を軽減し、継続的な参加を促すことが期待される。

### 食育・環境教育としての活用

- ・ 学校給食残渣などを活用し、堆肥化の過程をこどもたちが学ぶ場を設けることで、食や環境への理解を深める食育につなげることができる。
- ・ 実体験を通じて「循環」を学ぶことは、次世代の環境意識の醸成に有効である。

### 地域農業との連携と特色づくり

- ・ 地域資源を活用してつくった堆肥を有機農家に提供し、オーガニックビレッジ宣言と連動させることで、地域の特色ある農業を推進できる。
- ・ 生ごみ由来の多様なミネラルを含む堆肥は、土壌改良や安定した収穫に寄与し、持続可能な農業を支える基盤となる。
- ・ 「捨てればごみ、循環すれば宝」という考え方のもと、市民・行政・農業者が連携し、「循環のまち大府」の実現を目指すことが重要である。

### 3 令和8年度予算化等をした主な事業

有識者懇話会での提言に基づいた次の事業に必要な予算案を令和8年第1回定例会（3月議会）に上程します。

#### テーマ 貢献寿命の延伸を目指して

##### ■令和7年度に実施した事業

- ・ シルバー人材センターが運営する小学生の早朝の居場所づくりモデル事業を石ヶ瀬小学校・共和西小学校で試験的に実施（児童の見守りは、シルバー人材センター会員が担当）
- ・ 「食」を通じた多世代交流の拠点として、こどもから高齢者までが共に集える全世代型サロンを市内3カ所に新設
- ・ 就労・有償ボランティア・無償ボランティア・社会参加など、参加するシニア側の意向に沿った活躍の場に関する情報を収集し、提示する就労的活動支援事業の実施（生きがいつくり応援講座の実施、シルバー人材センター会員の登録の支援、高齢者のための活動参加ガイドの発行、生活支援ボランティア事業の実施など）
- ・ 健耕サポーター※マッチングシステムの導入（農業者を応援したい方とサポートを求める農業者をつなぐ、市独自の援農ボランティア制度。システムを導入し、農業を通じた社会貢献活動の裾野を広げることを目指す）
- ・ ソフトバンク株式会社や県事業である高齢者デジタルサポーターを活用した高齢者向けのスマホ講座の開催
- ・ 明治安田生命保険相互会社と健康マージャン教室・大会の開催
- ・ eスポーツルーム「espo いしがせ」開設3周年を記念した、小・中学生と高齢者によるeスポーツ交流大会を開催
- ・ 第37回全国健康福祉祭ぎふ大会（ねんりんピック岐阜 2025）のeスポーツ部門に「espo いしがせ」利用者が出場し、優勝
- ・ 市内事業所等を対象とした健康経営実践交流会での理学療法士による、ミニセミナーの実施
- ・ 大府市民活動センターを大府市民活動ボランティアセンターとして運営をするため、大府市民活動センターの設置及び管理に関する条例の一部改正
- ・ 大府市民活動ボランティアセンター新設に向けた意見聴衆・意見交換会の実施

## ■令和8年度に予算化して実施する事業

- ・ さくらノートのリニューアル（掲載情報を最新化するとともに、「住まいの終活」「ユニセフ遺産寄付プログラム」などの内容を新たに盛り込んだノートを作成）  
..... 231 千円
- ・ シルバー人材センターが運営する小学生の早朝の居場所づくり事業を市内全小学校に拡大  
..... 14,061 千円
- ・ 就労的活動支援事業の継続実施  
..... 8,000 千円
- ・ 大府市民活動センターを大府市民活動ボランティアセンターとして運営（市民活動センターに総合ボランティアセンターの機能を追加し、様々な団体等のマッチング機能を強化し連携を進め、市民活動やボランティア活動のさらなる活躍の場の創出・拡大を図る）  
..... 26,427 千円
- ・ 「おおぶ生き生き幸齢者応援八策」の推進に関連したテーマでの市民と市長のまちトークの開催  
..... 31 千円

## テーマ サークュラーエコノミーの推進について

### ■令和7年度に実施した事業

- ・ 環境配慮型マットレス購入費補助制度の創設
- ・ 大府市カーボンニュートラル推進生産設備導入支援補助制度の創設
- ・ 市内企業への愛知県循環型社会形成推進事業費補助制度（循環型社会の形成を推進するため、廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用等を促進する事業に要する経費の一部を補助する）の周知
- ・ リユースについて市民への啓発を図るため、行政広報番組で『そのごみ、どこへ行くの？～知多娘。が探る ごみと未来の物語～』を製作・公開
- ・ 企業と連携したリユース品回収イベントの開催（株ECOMMIT）
- ・ 「リユース活動の促進に関する連携協定」締結（株ECOMMIT）

■令和8年度に予算化して実施する事業

- ・ 寄附農地での地域循環型資源を活用した栽培実証の実施及び体験型農園の整備（地元農産物のPRや食育の場として活用）  
..... 2,151 千円
- ・ 大府市カーボンニュートラル推進生産設備導入支援補助の継続実施  
..... 65,000 千円
- ・ 環境配慮型マットレス購入費補助の継続実施  
..... 3,000 千円
- ・ 企業と連携した衣類のリユース回収の実施（株ECOMMITのPASSTO）  
..... 0 円
- ・ ナッジ理論を取り入れた令和8年度版ごみ・資源パンフレットの作成  
..... 1,045 千円
- ・ ダンボールコンポスト講座の実施回数の拡大  
..... 270 千円
- ・ 生ごみたい肥化容器等、生ごみ処理機（キエーロ）購入費補助の継続実施  
..... 【コンポスト・その他容器】60 千円 【キエーロ】100 千円
- ・ 小学4年生を対象とした環境学習出前講座でバイオマス発電施設の紹介（給食残渣を搬入）  
..... 107 千円